

社会资本総合整備計画書

高部・安国寺地区都市再生整備計画

平成 27 年 2 月 6 日

長野県茅野市

(参考様式2) 社会資本総合整備計画(防災・安全交付金)

平成27年2月6日

計画の名称	高部・安国寺地区都市再生整備計画										重点区分対象の該当						
計画の期間	平成27年度～平成31年度(5年間)				交付対象	長野県 茅野市											
計画の目標	<p>高部・安国寺地区は、市街地にありながら市内を望む眺望、諏訪大社前宮を代表する史跡の宝庫。昔ながらの石積・生垣や清らかな水など、歴史・自然の景観資源が数多く残る地域である。</p> <p>また、7年に一度の御柱祭とバーススポットとして人気があり、全国から観光客が訪れる重要な観光資源であるが、整備が十分でないため活用されていない状況である。</p> <p>この地域資源によるふるさとの情緒と癒しを感じる環境整備と交流拠点づくり等により資源の保全と活用を図る。</p>																
計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> 史料館の入場者数を7,772人/年(H25)から9,700人/年(H30)に増加 住民の満足度を27%(H25)から60%(H30)に増加 																
定量的指標の定義及び算定式	<p>神長官守屋資料館の年間入場者数を調査する。</p> <p>高部・安国寺地区的住民満足度をアンケート調査により把握する。</p>					定量的指標の現況値及び目標値						備考					
当初現況値 (H25)						中間目標値	最終目標値 (H30)										
7,772人/年						9,700人/年											
					27%	60%											
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	346.2百万円	A	346.2百万円	B	.百万円	C	.百万円	D	.百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)		0.0%				
交付対象事業																	
A 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況	備考
	H27	H28	H29	H30	H31												
1-A-1	都市再生	一般	茅野市	直接	茅野市	高部・安国寺地区歴史環境整備事業	遊歩道、交流センター、緑化等	茅野市						346		策定中	
													計	346			
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考	
	H27	H28	H29	H30	H31												
														0			
													計	0			
C 効果促進事業																	
C 道路効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考	
	H27	H28	H29	H30	H31												
														0			
													計	0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果												備考				
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考		
	H29	H30	H31	H32	H33												
													0.000				
番号	一体的に実施することにより期待される効果												備考				

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H27	H28	H29	H30	H31
配分額 (a)	30	21	29		
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0		
交付額 (c=a+b)	30	21	29		
前年度からの繰越額 (d)	0	0	1		
支払済額 (e)	30	20	30		
翌年度繰越額 (f)	0	1	0		
うち未契約繰越額 (g)	0	0	0		
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%		
未契約繰越+不用率が10%を超えてる場合その理由					

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

都市再生整備計画

たかべ あんこくじ
高部・安国寺地区

ながの 長野県 ちの 茅野市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	茅野市	地区名	たかべ 高部・安国寺地区	面積	130 ha
計画期間	平成 27 年度 ~ 平成 31 年度	交付期間		平成 27 年度 ~ 平成 31 年度			

目標

【大目標】地域に残る歴史資源や自然特性を活かしたふるさとの情緒と癒しを感じる環境整備を推進する。

【目標1】鎌倉道(通称)を軸とした歩行空間の整備により、歴史・文化・自然・水のネットワークを形成する。

【目標2】歴史資源や昔ながらの魅力ある街並み、里山景観等を保全し、それらを案内するための施設を整備する。また、この資源を守り、後世に引き継ぐ仕組みをつくる。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・宮川高部区は、諏訪大社上社本宮と前宮の中間に位置し、かつては諏訪大社上社の神官が居住していた地域であり、宮川安国寺区は、室町時代の安国寺創建に伴い現在の地名が残った地域である。このように、両区とも、歴史的に由緒ある地区であり、諏訪大社上社に關係する文化財だけではなく、早くから人々が生活した痕跡がある。こうした風土性ゆえに、地元では以前から、自主的に郷土史の刊行や文化財を守る活動が行われている。
- ・良質な湧水があり、かつては清流を利用しセリやワサビなどが栽培されていた。現在は、おいしい水道水の水源として重要な財産になっている。
- ・茅野市都市計画マスタートーナメント(平成11年3月)において、緑と共生する新市街地ゾーンとして本地区を設定している。都市計画道路参宮線及び都市計画道路新井線が整備され、国道152号線から国道20号バイパスに接続するルートが確立された。また、組合施行による土地区画整理事業(平成10年度から平成25年度)により住環境整備が行われている。
- ・地元有志により、昭和40年代から地区内の遺跡や寺社また祠などに案内看板が設置されており、現在も活動が行われている。また、鎌倉道(通称)を生かした道づくりも行われており、分岐点には簡易な道標が設置されている。
- ・諏訪大社上社御柱祭の川越しが行われる一級河川宮川の堤防は、地元のボランティア活動による草刈や桜並木の保護が行われており、風情ある水辺景観や自然が感じられる遊歩道となっている。川辺では、毎年大量のホタルが自然発生しており、後世に残したい大切な場所である。
- ・神長官守矢史料館は、高部区出身の建築家、藤森照信氏により設計され平成3年に開館した。また、平成22年には、同建築家の企画展が開催され、ワークショップで茶室「空飛ぶ泥舟」が建設された。その他にも、茶室「高過庵」があり、どの作品も特徴的な造形から、この建築群を目見ようと多くの観光客が訪れている。
- ・諏訪大社上社前宮は、諏訪信仰発祥の地と言い伝えられており日常的に観光客等が訪れている。また、パワースポット人気の高まりや、近隣の子安社への安産祈願などから参拝者が増加傾向にある。
- ・都市計画道路参宮線は御柱街道として里曳きでは御柱の曳航が行われ、近年は宣伝効果もあり多くの見物客が訪れるが、特に前宮周辺は氏子だけでも身動きが取れなく、大変危険な状況である。安全面から曳航ルートとは別に循環型の歩道と氏子や見物客が集まる広場、避難できる場所などの整備が急務である。

課題

- ・諏訪大社前宮をはじめ多くの文化財があるが、環境整備が十分でないため、歴史的な魅力に着目されにくい状況である。
- ・地元有志により鎌倉道(通称)を生かした道づくりが行われている。遺跡を経由し、森林の縁や古い街並みなど地域に昔から残るありのままの風景を楽しみながら歩く遊歩道であるが、道幅が狭く急峻な部分が多く安全性に欠けている状況である。
- ・宮川河川敷の堤防道路や鎌倉道(通称)など、既存の通路を繋げコース設定することで特色ある遊歩道となるが、沿道に公衆トイレや休憩場所が少ないため、観光資源や健康づくりのためのウォーキングコースとして利用しにくい状況である。
- ・地域の伝統的な日本家屋や昔ながらの生垣・石垣など魅力的な街並みが残っているが、それらを守るためのルールが無いため、今後、こうした街並みが失われてしまう恐れがある。
- ・段々畑などの魅力的な里山景観が残されているが、栽培農家の減少などにより、荒地が増えている状況である。
- ・茅野市の角寒天生産量は日本一であり、なかでも宮川地区が最も盛んに生産されている。しかし、時代の流れとともに、徐々に天然の角寒天づくりが見られなくなり、凍餅、凍豆腐などを含む風物詩的景観が失われつつある。

将来ビジョン(中長期)

茅野市民プラン(第4次茅野市総合計画後期計画2013-2017／平成25年3月策定)では、下記の基本計画を定めている。

- ①自然と諧するまちづくり(景観に配慮したまちづくり、まち並み修景づくり)
 - ・茅野市景観形成基本計画に基づき、水辺景観の活用、緑のネットワーク整備、庭園風景の整備、歴史的に貴重な街並み保存事業等を推進する。
 - ・各地域で特色あるまちづくりを進めため、住民協定の締結を促進し、公民一体で魅力ある街並みの管理・運営に取り組む。
- ②生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供(文化財の充実)
 - ・地域の歴史・伝統文化・自然・景観等の文化財は、地域を正しく理解するために必要不可欠な財産であり、後世に伝え残すために保護・保存をする必要がある。そのため、文化財ガイドブックの作成や文化財保護団体の育成と助成、史跡整備とネットワーク化、地域の文化財を訪れる人のためにボランティアガイドの育成などを行う。
 - ③観光の振興(観光拠点の整備)
 - ・市内に点在する観光資源を有効活用し、1~2時間で愉しめる観光スポット(コース)の開発を行う。

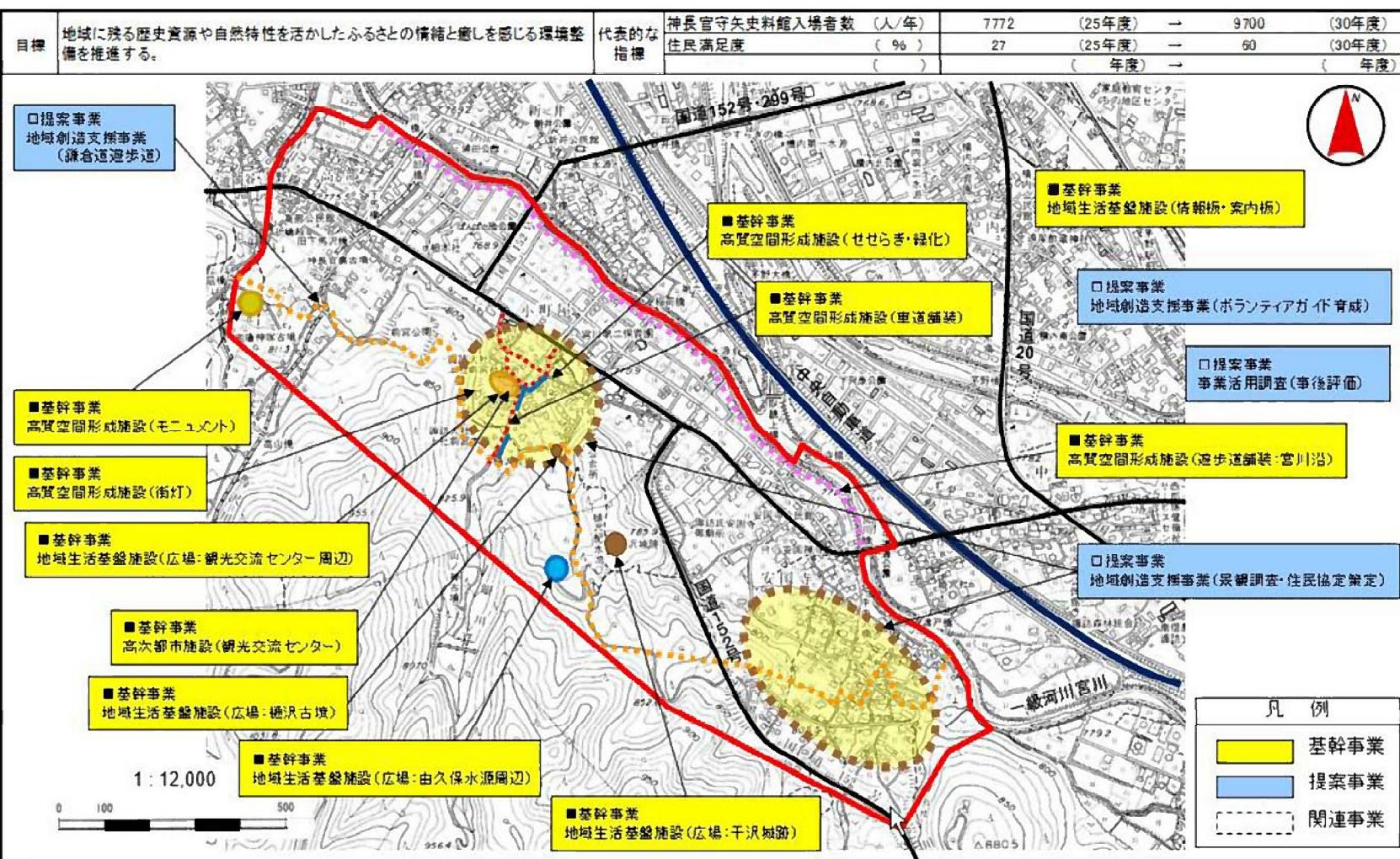
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
神長官守矢史料館入場者数	人/年	神長官守矢資料館への年間入場者数	案内看板や鎌倉道(通称)の整備等により周遊性を高めることで、神長官守矢資料館や諏訪大社上社前宮等文化財への来場者も増えることから、目標達成度を定量的に測ることができる。	7772	平成25年度	9700	平成30年度
住民の満足度	%	①諏訪大社前宮周辺の雰囲気、②鎌倉道の歩きやすさ・わかりやすさ、③地元の街並み景観に関するアンケート調査に満足・ほぼ満足と回答した人の平均値。	住民満足度を把握することで、目標達成を判断することができる。	27	平成25年度	60	平成30年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【1】歴史・文化・自然・水を感じる歩行空間の整備とネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉道(通称)を軸とした遊歩道を整備し、文化財に安全にアクセスできる歩行環境や昔からある地域の風景を楽しめる環境を整備する。 ・地区内に点在する文化財周辺を歴史を感じ、眺望等を楽しむ広場として整備する。 ・鎌倉道(通称)沿いの湧水地を水に親しめる場とし、休憩のできるポケットパークとして整備する。 ・宮川堤防道路の高質空間をつくりだし、八ヶ岳の景観に調和した水辺環境の整備を図る。 ・地区的趣きある雰囲気に合せ、道路舗装や照明施設の高質化を図る。 ・地区内のきれいで豊富な水の流れを活かし、五感で感じられる親水整備を行う。 	<p>■【基幹事業】地域生活基盤施設(広場整備) ■【基幹事業】高質空間形成施設(車道舗装整備) ■【基幹事業】高質空間形成施設(遊歩道舗装整備) ■【基幹事業】高質空間形成施設(せせらぎ・緑化整備) ■【基幹事業】高質空間形成施設(モニュメント整備) ■【基幹事業】高質空間形成施設(街灯整備)</p> <p>□【提案事業】地域創造支援事業(鎌倉道遊歩道整備)</p>
<p>【2】歴史資源や魅力ある街並み、里山景観の保全と、それらを案内するための施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民協定を締結し、昔ながらの石垣や生垣など、魅力ある街並みを保全する。 ・情報板、案内板を整備することにより来訪者を適切に誘導し、地域巡りに活用する。 ・来訪者のための案内・情報発信及び地元の人々との交流の場としての拠点を整備する。また、地域を案内ができるボランティアガイドの育成を行う。 	<p>■【基幹事業】地域生活基盤施設(情報板・案内板整備) ■【基幹事業】高次都市施設(観光交流センター整備)</p> <p>□【提案事業】地域創造支援事業(ボランティアガイド育成) □【提案事業】まちづくり活動推進事業(景観調査・住民協定策定)</p>
その他	

高部・安国寺地区(長野県茅野市) 整備方針概要図



社会资本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称：高部・安国寺地区都市再生整備計画

事業主体名：茅野市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	<input type="radio"/>
2)上位計画等と整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	<input type="radio"/>
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	<input type="radio"/>
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	<input type="radio"/>
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	<input type="radio"/>
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	<input type="radio"/>
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	<input type="radio"/>
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	<input type="radio"/>
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	<input type="radio"/>
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	<input type="radio"/>
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	<input type="radio"/>
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	<input type="radio"/>
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	<input type="radio"/>